琉球大学学術リポジトリ

感染症疑い患者の院内死亡率予測における病院前qSOFAの有用性：後ろ向きコホート研究

メタデータ	言語: English 出版者: 琉球大学 公開日: 2021-05-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Koyama, Satoshi, 小山, 智士 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/48495

（別紙様式第３号）

論　文　要　旨

論　文　題　目

Use of prehospital qSOFA in predicting in-hospital mortality in patients with suspected infection: A retrospective cohort study

（感染症疑い患者の院内死亡率予測における病院前 qSOFA の有用性：後ろ向きコホート研究）

氏　名 小山智士 印

（直　筆）

論文要旨

【背景】敗血症は感染症に対する制御不能な生体反応に起因する生命を脅かすような臓器障害であり、有病率・死亡率が共に高い世界的な健康問題の1つである。quick sequential organ failure assessment（qSOFA）スコアは感染症患者の血圧・呼吸数・意識レベルから算出される簡易スコアで、敗血症患者の予後予測に有用と報告され、その簡便さからも近年救急外来と病棟にて広く使用されている。ICU外での感染症患者に対して、qSOFAスコアを用いて敗血症のリスクを早期に発見することが国際的に勧められているが、より早い段階である病院前（救急隊接触時）におけるqSOFAスコアの適用に関する研究報告は乏しい。今回、救急隊員によって現場で得られた接触時バイタルサインを使用して病院前qSOFAスコアを算出し、地域コミュニティにおける病院前qSOFAスコアと院内死亡率との関連を調査した。この研究は、

20×20

感染症患者の死亡リスクを予測するための病院前qSOFAスコアのパフォーマンスを評価することを目的としている。

【方法】この単一施設後ろ向きコホート研究は、2016年4月から2017年3月の間で、沖縄県立中部病院救急外来に救急車で搬送され、入院したすべての感染症疑いの成人患者を対象とした。救急隊員が現場で取得した接触時バイタルサインを用いて病院前qSOFAスコアを算出した。プライマリアウトカムは院内死亡率とし、病院前qSOFAスコア陽性と院内死亡率との関連を評価するためにCox比例ハザードモデルを使用した。

【結果】救急外来から入院した925人の感染症疑いの成人患者のうち、51.1%（473/925）は病院前qSOFA陽性、48.9%（452/925）は病院前qSOFA陰性だった。院内死亡率は、病院前qSOFA陽性患者では14.0%（66/473）、病院前qSOFA陰性患者では6.0

20×20

%（27/452）だった。Cox比例ハザード回帰分析を用いて患者因子（年齢、性別、基礎疾患、居住地）を調整した結果、病院前qSOFAスコアは院内死亡率との強い相関を認めた（調整ハザード比：2.41, 95%信頼区間：1.51–3.98; p <0.01）。

【結語】救急外来から入院した感染症疑いの成人患者において、病院前qSOFAスコアと院内死亡率の間に強い相関を認めた。実臨床で病院前qSOFAスコアを活用するためには、病院前の段階で感染症かどうかを評価する研究が将来的に必要となる。